

「熱冬Tome」

前列左が高橋明輝、同右が後藤千葵
後列が白鳥和

寒さが厳しくなる中、
若者たちが冬を熱くしている
各種大会で活躍する
本市の若者たちに迫る



「選ばれた者の自覚」

南方中ソフトテニス部

第29回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会
宮城県代表 高橋明輝、後藤千葵、白鳥和

3 月26日から三重県伊勢市を会場に開かれる「都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会」。同大会の県代表選手に、南方中2年の高橋明輝、南方町南大畑、後藤千葵、南方町沼崎、白鳥和、南方町沢田が選ばれた。同大会は、学校単位ではなく、各都道府県から選ばれた選手が出場する。高橋、後藤は初、白鳥は昨年に続き2回目の選出。

本市中学ソフトテニスのレベルは、県内トップクラスを誇る。過去には、当時東和中の幸野紅映、東和町錦織1区（現築館高）が全日本アンダー14チーム入り、昨年は、東和中の赤松皇汰、東和町米谷3区が都道府県対抗の県代表選手に選ばれている。また、2年前には南方中の星椋也、南方町新高石、白鳥怜、南方町沢田が全中に出場し、4度の全国制覇を果たしている名門、東北高校に進学し活躍している。

都 道府県対抗の選手は、その年度の県の県中総体新人大会上位入賞者などが選考会に参加し、男女各8人が選ばれる。高橋と後藤は、昨年度からペアを結成した。昨年11月に開かれた県中総体新人大会で準優勝し、選考会に参加。念願だった代表入りを果たした。

「代表入りはうれしいが、新人大会で優勝して選ばれることが目標だったので素直に喜べない」と高橋と後藤。二人の本年度の目標は「東北中総体出場」だった。市大会を優勝し、迎

えた県中総体。準々決勝で敗北し、目標を達成できなかった。「初めての県中総体で緊張した。大事なところでミスを連発してしまった」（後藤）。「勝てる試合を落とす。相手は3年生ペアで、意地と底力を見せつけられた」（高橋）と振り返る。

県 8強に終わり、「新人戦は必ず県優勝」を合言葉に、二人は練習に打ち込んだ。優勝に向けて部活動だけではなく、スポーツ少年団、自主練習を重ね、本番に備えた。迎えた県中総体新人大会。順調に決勝まで勝ち進んだが、セットカウント3-4で惜敗、準優勝に終わった。「会場の雰囲気は飲まれ、チャンスボールをものにできなかった」（後藤）。「序盤テンポ良く点が取れ、勝てるのでは」と気が緩んだ。試合にうまく集中できなかった（高橋）と二人は唇をかむ。

栗山高広監督は「負けはしたが、よくやった。後衛の高橋は強く打ち込まれても、逆に強い球で打ち返せる。気持ちも強く、球を打つ技術も高い。前衛の後藤は、瞬発力や反応の速さなど、身体能力が高い。最近では考えられていないように、急成長している。二人は前衛、後衛でそれぞれ、県1、2のプレーヤー。悔しさをばねに、都道府県対抗で上位入賞してほしい」とエールを送る。

2 年続けて県代表に選ばれた白鳥は「本年度の中総体で結果を残せなかった分、都道府県対抗は負けられない」と力を込める。

白鳥も高橋・後藤同様、本年度は東北中総体出場を目標にしていた。7月の県中総体で4強に入り、東北中総体行きを決めた。2回戦で山形代表の中川・半田ペア（宮内中）と対戦。1セット目は競ったものの、2セット目以降、地方の差を見せられ、ストレート負けを喫した。白鳥自身、公式戦でのストレート負けは初めての経験だった。

相 手は2セット目から本気を出してきた。ボールスピード、コントロール、ゲームスピード、戦略など、全てに力負け、完敗だった。相手は3年生で、全中5位入賞ペア。現段階では、十分健闘したといえるが「あれぐらいにならないければ、全国では通用しない」と現状に満足しない。

高橋はるか監督は「白鳥は、さまざまな球種を持っており、それを打ち分ける高い技術を持っている。加えて大の負けず嫌い。勝つためには努力を惜しまない。本大会では、昨年の経験を生かし、上位を狙える」と目を細める。

都道府県対抗では「上位入賞（高橋・後藤）団体では優勝、個人では8強（白鳥）を目指す三人。それぞれが3月の本大会に向けて、日夜厳しいトレーニングに取り組んでいる。厳しいトレーニングも、選ばれた者の自覚があるからこそ。乗り越えた先には、三人の目指す結果が待っている。期待は高まるばかりだ。」